

教育と文化

プログラミング教育月間 プログラミングで将来の夢が広がる

1月15日に東山代小学校で、小学校6年生担当の教員を対象としたプログラミング教育研修会、1月18日には東陵中学校で、中学1年生を対象としたプログラミング教育体験ワークショップがありました。

令和2年度に小学校で、令和3年度から中学校において、論理的に考える力である『プログラミング的思考』を育むためのプログラミング教育が必修化されることから、市は令和2年3月2日に『プログラミング教育推進のまち』を宣言し、市内の学校で積極的に推進するため、1月を『プログラミング教育月間』としました。



↑相澤代表取締役（左）はプログラミングに興味を持ち続けてほしいと伝えました



↑ロボットカーの速度をプログラミングで調整しました

東陵中学校では、アプリケーション・ソフトウェアの開発などを行うタイムカプセル株式会社（立花町）の相澤謙一郎代表取締役が講師となり、1年生の40人はプログラミングが社会を支えている状況やロボットカーを動かすプログラミングを学びました。ロボットカーが前進すると、教室には生徒たちの喜びの音が響き渡り、プログラミングで物を動かす楽しさを実感しました。

相澤代表取締役は「好きな事をやっているほうが効果が上がります。好きな事を仕事にしてほしい」と伝えました。

このワークショップは順次、中学校1年生および義務教育学校7年生を対象に、すべての学校で行われました。

郷土の文化財

伊万里の遺構シリーズ「埋葬遺構を中心として」④

●問合先 生涯学習課文化財係 ☎0221-2662

午辰遺跡の副葬品

午辰遺跡の墓からは、さまざまな副葬品が出土しました。大型甕棺墓と小型甕棺墓の各1基からは、それぞれ管玉が複数出土し、土

や立場を表すものだとわかれています。

壙墓の1基からは、ほぼ完形の鉄製槍鉞（工具）が出土しました。石棺墓の一つからは、ほぼ完形の青銅鏡、ガラス小玉、鉄製鎌片、ガラス管玉、鉄刀、麻布片が出土しました。

午辰遺跡の出土遺物は資料的価値が高いため、佐賀県重要文化財に指定されています。また、市歴史民俗資料館の常設展で公開しています。

石棺墓出土の青銅鏡の裏面には、『長宜子孫（長く子孫によろしいという縁起のよい言葉）の銘が中央にあり、その外周に弧線が8つ連なっており、花弁状の文様が描かれています。この青銅鏡は大陸から持ち込まれたもので、一世紀後半に作られたものと考えられます。こうした副葬品は、埋葬された人物の社会的な地位



↑青銅鏡の出土状況